

議員定数に関する特別委員会

1. 会議の概要

日 時 平成28年2月26日（金）午前10:00～11:30

場 所 阿賀野市役所 委員会室

出席議員（特別委員17名、議長1名）

山崎 正春、浅間 信一、遠藤 智子、山口 功位、高橋 幸信、倉島 良司、
宮脇 雅夫、江口 卓王、風間 輝栄、雪 正文、山賀 清一、佐竹 政志、
山田 早苗、近山 修、天野 美三男
村上 清彦（委員長）、市川 英敏（副委員長）
石川 恒夫（議長・オブザーバー）

2. テーマ（ワークショップ形式で意見交換）

「信頼される議会になるために何をすべきか」

（前半）議会改革、活動の取り組みについて反省点・課題

（後半）前半の意見をふまえこれからどう取り組む必要があるか

3. 主な意見

本会議については今まで通りの流れで良いと思う。

会派代表質問があっても良いのでは。

現状でも会派を代表して質問しているので必要ない。

議会日程については近隣他市の状況なども踏まえて研修する必要がある。

議会運営は会派代表者会議で議論を進めていくべき。

議会の改革を積極的に取り組み、進めてきた。

ワークショップ形式で良い意見交換が出来た。

市民から見て議会、議員は何をしているか見えない。そのための議会改革。

議員が一致し議会として執行部へ意見していくための合議の場となっていない(自由討議が活かされていない)。

会派代表者会議、会派内での論議をもっと大事にしていく必要がある。

議会報告会は人気がない。議員が地域へ出向くということには意義がある。

参考資料から定数減は避けられないのか。

市民から定数削減の話は今のところ出ていない。

地区から選出されている議員が少ないために削減の声は聞こえてこない。

議会報告会を通じて市民との意見交換を継続してきた。

合併後72人→26人→22人→20人と定数削減を積極的に取り組んできた。

地区により議員数の偏りがある。

他市と比べて議員報酬が低いので若者が立候補できないとの声がある。

定数削減をこれ以上進めると常任委員会の構成が困難になるのではないかと。

市民は定数削減は決まっていると考えている。

一般会計に対する議会費の割合 0.42 から 0.52 へ議論した方がよい。

若い人が立候補するにはハードルが高くなっている。

本会議、委員会を活性化させるには議会改革推進特別委員会で話し合うべき。

議会では活発に発言すべき。

調査研究費を増やして実のある研修を行い、全議員や市民へ周知すべきである。

市民は特別委員会ができれば削減するとみている。

削減しても優秀な人が当選するとは限らない。

議員の質の向上が必要。

市民の声を十分反映させるためには削減すべきではない(今が最低ライン)。

委員会の所属を二つずつにしても良いのではないか。

若い人や女性が議会に出られる環境づくり(処遇含め)が必要。

自由討議は無駄ではないか(意見が交わらない)。

4. 今後の対応

意見の中にあつた「若者、女性が挑戦(議員に立候補)できる環境づくり」、「市民の声を反映させる取り組みとは」、「委員会のあり方」を取り上げ、次回の特別委員会で意見交換を行う。また、議会改革に関する事項は、議会改革推進特別委員会・政策部会へ協議を申し入れた。

以上